

17 帯芯の研究 (第1報)

合成繊維の帯芯 —特にしわについて—

昭和女子大 大竹 この
佐成 郁子

1 民族服として世界服飾史上大きな特色を持ち、洋

装の一般化した今日でもなお私達日本人に限りない郷愁と愛着をもって着用されている和服殊に帯について、従来服装史上、被服衛生学上幾多の研究がなされているが、帯を構成する重要なポイントたる帯芯そのものの性能その他については未だ余り取上げられていないように思われる。そこで私達はこの帯芯について各方面から研究検討してみたいと思い、まず帯芯に要求される第一の性能として皺の問題を取上げてみた。

2 今回は最近目ざましい進出を示している合成繊維の帯芯を研究対象とした。即ち試料としてナイロン交織帯芯三種、サラン帯芯一種、接合布（パネロン系）帯芯三種を選び、その比較対照として渋谷東横百貨店で最も販売数の多い木綿芯一種を選定し、帯芯の場合は吸湿性が皺に最も深い関係を有するという観点から、各試料の吸湿量を種々変化させてその防皺度を測定した。また帯側に同一木綿地を用いて半幅帯を作成し着用実験を行ない実際に夏季着用の場合の結果を考察した。

3 上記実験において、一般にサラン・接合布（パネロン系）帯芯がしわになりにくいことが認められた。